



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本医療大学	階数	4
建設地	札幌市豊平区月寒東3条11丁目 270-1の内、271-4、276-2、277-1 の内、310-1の内	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	0人
建物用途	学校	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
竣工年	2021年3月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	35,418 m ²	評価の実施日	2019年12月19日
建築面積	9,773 m ²	作成者	
延床面積	32,162 m ²	確認日	2019年12月20日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]= 0.72

2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項	
<p>総合 道路境界線から外壁面を30M後退させ建物前面はカーテンウォールとし、道路境界線・隣地境界線には植え込みを設置し、周辺環境・周辺住民に配慮した配置計画とする。 建物内には大きな中庭を設け、光や風が通り抜ける開放的な空間をつくります。</p>	<p>A 省エネルギー LED照明の採用。</p>
<p>B 省資源等 節水型便器の採用します。建物内に大きめのゴミ置き場、塵芥室を設けリサイクルに努めます。</p>	<p>C 緑化 許可基準緑化率30%に対し緑化率40%以上。</p>
	<p>D 雪処理 建物前面はロードヒーティングとし、敷地内には降雪スペースを確保しています。</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用	
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし
BELS認証	なし
LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)

日本医療大学

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								3.1
1 音環境			3.0	0.15				3.0
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40				
1.2 遮音			3.0	0.40				
1 開口部遮音性能			3.0	0.30				
2 界壁遮音性能			3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	0.20				
1.3 吸音			3.0	0.20				
2 温熱環境			3.0	0.35				3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50				
1 室温			3.0	0.60				
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.40				
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御			3.0	0.20				
2.3 空調方式			3.0	0.30				
3 光・視環境			2.9	0.25				2.9
3.1 昼光利用			2.4	0.30				
1 昼光率			2.0	0.60				
2 方位別開口								
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40				
3.2 グレア対策			3.0	0.30				
1 昼光制御	省エネ		3.0	1.00				
2 映り込み対策								
3.3 照度		教室・事務室 照度500~600に設定	4.0	0.15				
3.4 照明制御			3.0	0.25				
4 空気質環境			3.7	0.25				3.7
4.1 発生源対策			4.0	0.50				
1 化学汚染物質		使用する材料は全てF☆☆☆☆等級以上とする	4.0	1.00				
4.2 換気			3.0	0.30				
1 換気量			3.0	0.33				
2 自然換気性能			3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33				
4.3 運用管理			4.0	0.20				
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50				
2 喫煙の制御		敷地内、建物内全面禁煙	5.0	0.50				

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	2.9
1 機能性			2.8	0.40	-	-	2.8
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	-	-	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			2.5	0.30	-	-	
1	広さ感・景観 (天井高)		2.0	0.50		-	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		3.0	0.50		-	
1.3 維持管理			3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		1階壁長さ比率0.13	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	中庭を設け、開放的な空間にする。建物入口に警備員室を設け防犯に配慮する。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI BPI _m =0.60	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.72 -	3.8	0.50	-	-	3.8
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器の設置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減	省資源		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	ロックウール吸音板、Pタイル	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源		3.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			2.7	0.20	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.33	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率に基づく換算スコア 3.7	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄熱処理		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐車場の出入りは左折進入に限定する。荷捌き用の駐車スペースは建物側面・裏側に確保する。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	建物裏側に排雪スペースを確保。 1Fに塵芥室(26㎡)、厨房用のゴミ置き場(10㎡)を設置。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要			BEE	1.2	BEEランク	B+
建物名称	日本医療大学					
建物用途	学校					
延床面積	32,161.7	m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★★	
			<p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下</p> <p>★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下</p> <p>★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下</p> <p>★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下</p> <p>★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>

3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 23.5 最低点 6.6)		合計 17.3点 /23.5点	
Q1 温熱環境	スコア 0.8 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア 1.3 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.2 /2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 7.6 /10.0
		LR1 効率的運用	スコア 2.4 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.6 最低点 7.6)		合計 14.1点 /23.6点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 5.6 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.1 /1.8
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.7 /5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.2 /4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計 8.2点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 2.7 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.6 /6.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 /2.3		
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計 3.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数